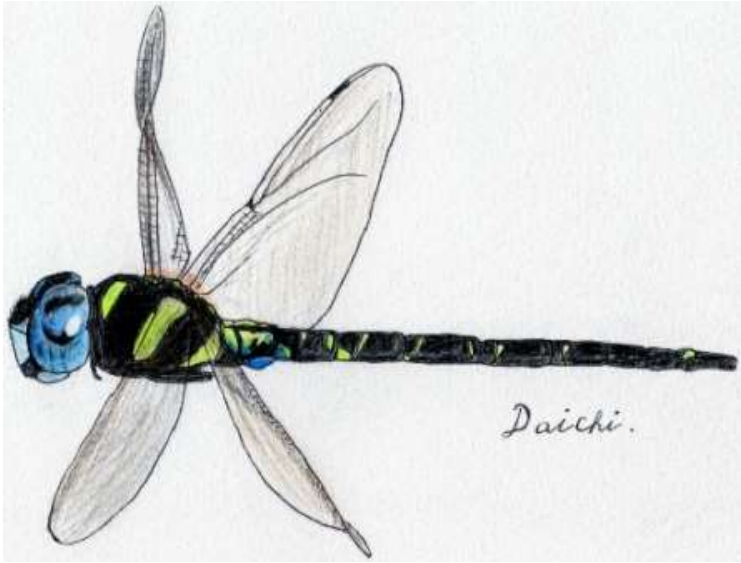
ヤブヤンマ号

佐野真吾が語る侍従会の思い出（最終回）～ふるさと侍従川～

鉄腕 DASH に出演されていることでも有名な木村尚さんは言いました。「侍従会の人に「なぜ川掃除をするの？」と尋ねたら「ここでゴミを拾っとけば海までいかないだろ？」と答えたんだよ。侍従会の人たちは森・川・海はつながってるっていう強い認識があるんだよ。これはすごいことだと思うんだよね！」侍従川は短い川なので、流域に住む人たちにとってそういう認識があるのかもしれません。しかし、きっとそれだけではないでしょう。木村さんのお話を聞いたことをきっかけに侍従会の良いところを考え直しました。

私が考える侍従会の大きな特徴は、「川で遊ぶ」、「川を通してつながる仲間意識」、「新しい世代」の３つなのではないかと思っています。侍従川は、1990 年代初頭までゴミやヘドロが溜まったドブ川でした。しかし、きれいな川だった頃の侍従川を知るメンバーは、「侍従川をもう一度遊べる川にしよう！」というスローガンを掲げ会を立ち上げました。そのため、「川を守る」、「川を保全する」、「生き物を復活させる」というのは、確かに会の目的の一つではありますが、川がきれいになって生き物が復活したら、その先何をするか？と聞かれたら、「川で遊ぶ！」と答えるのです。だから、大人たちは子どもたちに対して「川に入ってはいけない！」とか「生き物を採ってはいけない！」とは言いません。



編集部注：私が子どもだった頃はお休みします。

ヤブヤンマ（藪蜻蛉）
学名：*Polycanthagyna melanictera* (Selys,1883)

最大で 90 ㎜を超える大型のヤンマで、成熟したオスの複眼は鮮やかな青色に染まる。

樹林に囲まれた暗い池や湿地に生息する事が和名の由来となった。

成虫は主に６月～9 月に発生する。朝夕の薄暗い時間帯に活動する為、目にする機会は少ない。

深沢大地

これは、他の団体や活動には少ない大きな特徴であり、侍従会が最も大切にしているところだと思います。

次に、木村さんがおっしゃったことに直接関わる部分ですが、侍従会は、川を通して生じる「仲間意識」を大切にしている会だと思います。「仲間意識」というのは、別に普段つるまなくても例え仲が良くなくても持てる意識なのではないでしょうか。子どもたちを見ているとそれは顕著で、出会った時はケンカから始まり、その後もケンカばかりしている子たちでも、「あれ？今日は誰々来ないの？」なんて言ってみたりする子もいます。この不思議な仲間意識は、川や生き物を通して、共に体験することによって生まれるものなのかもしれません。川や生き物たちを通して、人と出会い仲間が増えるということはすばらしいことですよね。良い川は、良い人と良い町を育むものなのではないかと信じています。木村さんがおっしゃった「侍従会の人たちは森・川・海はつながってるっていう強い認識がある」という話は、川を通して繋がる地域全体の仲間意識なのではないでしょうか。

2008 年新入生歓迎遠足 in 小網代

侍従会の特徴の３つ目として「新しい世代」というのを挙げさせていただきました。侍従会には、子どもたちの世代が途切れることなくいて、その子どもたちが大人になり、会を運営していく仲間に育っています。私も子どもの頃から侍従会にいて、運営する側に育った一人ですが、私より後輩の世代も現在は成人し、会の運営に携わるようになってきています。これは侍従会にとって本当に大きな強みです。侍従会は子どもたちの存在をとにかく大切にしてきました。これこそが侍従会が 20 数年以上続いていて、今もなお衰えない秘訣だと思っています。私は 18 歳から運営のメンバーに加えていただき、それから 10 数年、少しずつ心境やポジションの変化を感じながら大人になりました。そして、その中で、子どもたちのことを大切な未来ある活動仲間という認識で見るようになりました。小さかった子が大人になって、一緒に虫とりに行くようになったり、飲みに行ったり、生き物の保全活動を一緒にやるようになり、初めて感じる心境の変化がありました。そして、これから先に出会う子どもたちの中にも将来一緒に活動する仲間がいるかもしれないと思うと、それは本当に幸せなことだと思うようになりました。もちろんその子たちが将来侍従会に残るか残らないかは分かりませんが、少なくとも川や生き物に対する愛着は残り、大人になってからも理解を持つ心は持っていてくれるのではないでしょうか。

2009 年 観察会

ひとつの団体や会を存続させることや意志を引き継いでもらうことは大変なことです。会や活動を存続させるために若者を入れなくちゃ！と思い連れてきたところで、定着してくれるとは限りません。先代の方々がそうだったように、若者も自分の意思で自分たち発の行動をしたいのです。引き継がれてきたものは大切ですが、時にコンセプトだけ押さえて、あとは好きなようにやらせてあげられる環境が必要です。そしてなにより、子どもの頃からいて残った若者の力は大きなものです。その若者たちが、今度は新しい世代を大切にしていくことが存続の秘訣なのかもしれません。

2012 年新入生歓迎遠足 in 森戸川

さて、私もついに今年の 5 月で 30 歳になりました。侍従会歴もかれこれ 24 年です。この連載でも書かせていただいてきた通り、私の人生は虫のことばかりでした。虫なしの人生なんか考えられずまったく根拠もない自信ばかり持っていました。大学院を出た後、1 年間は県立博物館に非常勤職員として就職し、その後 1 年は博物館に席を置きながらフリーで自然に関する仕事をしました。しかし、それでは満足いかず再び大学に戻り大学院博士課程に進学しました。それから 3 年、とうとう「その後はどうするのか！？」という別れ道のないどん詰まりまで来てしまいました。結婚もしたしさすがにこれ以上好き勝手も出来ないし、でも虫と関われない人生なんか絶対に考えられないし、虫と家庭が両立できる人生を送るためなら、辺境の地でも海外でも行く覚悟を決めました。もちろんまだまだバイタリティがあって油ものっているので、これからも冒険したいという希望もありましたが、それでも生まれてから約 30 年間生きてきた地元と地元の自然、侍従川と侍従会には大きな思い入れがあり、心には大きなモヤモヤが残っていました。妻には「もし今、地元を離れることになってもいつかは絶対に地元に戻りたい。どんなかたちでも侍従会の意思を継ぐのが俺の使命だから！」と言って聞かせました。妻はそれを理解してくれました。それから、就職先を求めて奄美や小笠原、北海道、東南アジア等の就職先を探すようになりました。

2014 年野草パーティ

しかし、2016 年 12 月、隣の横須賀市にある観音崎自然博物館で急遽学芸員の公募が出たのでした。博物館の学芸員は子どもの頃からの憧れの職業でしたし、何より地元に残れると思い履歴書を出しました。すると運よく一次、二次と合格し就職が決まったのでした。代表の山田さんには就職が決まったその日に連絡しました。学芸員や大学教員になりたいというのは、子どもの頃から思い描いていたものでした。肩書や名誉そのものを目的

とする世界で生き残る自信はありませんが、少なくとも好きなことが出来て、虫の調査や保全をおこなって、いくら採っても減らないくらい虫がたくさんいる世の中にしたいという自分の夢を叶えるための手段としては理想的な職業だと思っていました。そのため運よくこの職業に就けたことに感謝して今後とも精進していきたいと思います。そして、尚且つ地元に残れたことを大変嬉しく思いほっとしました。侍従会の皆様、今後とも末永くよろしくお願いいたします。

というわけで、2008 年から９年間書かせていただいてきた連載も今回で最終回です。侍従会に入会した小学校１年生の頃からの思い出を９年かけて書かせていただいてきましたが、ついに話が現在に追いついてしまいました。30 歳と就職という区切りを持って、佐野真吾が語る侍従会の思い出シリーズを終了させていただきたいと思います。長い間読んでいただいた皆様、ありがとうございました。

完

第３１回横浜の水辺と緑を考える子ども会議　【活動報告１】

３月２６日（日）９：００～　舞岡ふるさと村・虹の家　柴田真菜（小 6）

３月 26 日、第 31 回横浜の水辺と緑を考える子ども会議が舞岡ふるさと村・虹の家で行われました。本番を迎えるにあたって、会議を４回行いました。

今年のテーマは『生き物を守ろう・増やしていこう』です。外来種が日本種の魚を食べたりしてしまうので、このテーマが出ました。参加団体は、侍従会・二つ池・舞岡中学校など、多くの団体が参加をしました。

テーマは『生き物を守ろう』とありますが、日本種の生き物を守るためには、外国からきた様々な外来種を駆除したり、増えないようにしなくてはいけません。そして、日本種の生き物が増えていくのです。本番の時には、前半・後半で分けてやりました。前半は、事前に作った水辺のゴミ問題のスゴロクをしました。後半は、ワークショップをしました。ワークショップは、来場者の人たちに生き物に触れ合ってもらったり、各団体の展示物を見学したり、生き物博物館を見学する事が出来ました。

その日は朝から冷たい雨が降っていましたが、たくさんの人が来てくれました。これから私は、外来種は日本種を減らすので、外来種を見付けたら違う場所に移すような行動をして行きたいと思います。

今回、私は侍従会のリーダーと、子ども会議の書記をやりました。とても良い経験・体験が出来ました。皆さま、お疲れ様でした。

３月定例クリーンアップ

【活動報告２】

３月２５日（土）、４月２日（日）　９：００～１１：００　　細川一雄

実施内容：大道東橋～大道橋（土嚢袋４袋分回収）、六浦二号橋～大道橋～朝比奈橋（土嚢袋６袋分回収）

参加者：長野政治、中山吉雄、西澤博厚、八木場紀元、村田章夫、山田陽治、飯村優介、遠藤ゆう、今井康祥、今井翔太（小５）、今井はるか（小２）、柴田繭子、柴田真菜、柴田真菜×２、柴田幸成×２、林友美、林叶恵（小４）、林正朗（小２）、　金子英司、深沢大地、高橋一太、金澤喜乃（小６）、貞廣守保（小４）、原田あい、佐藤弥粋、北見こはね、細川一雄×２（計３０名）

作業風景（土嚢袋と魚取り網を持って、いざ！）

予定日の３月２６日が子ども会議の為、急遽前日の２５日に下流域のクリーンアップと子ども会議で展示する生き物の採取を子どもたちが実施しました。また、翌日が雨の為、３月度のクリーンアップは４月２日(日)の実施となりました。桜の開花宣言が３月２２日に出ましたがその後の天候不順で、１０日間過ぎてもちとせ園の桜はまだ２分咲き位です。今年は長く桜（花見酒？）が楽しめそうです。

回収した鉄パイプとラケット・網・ハンガー

前日は関東地方でも雪が降るなど異常気象の様な陽気でしたが、当日４月２日一転穏やかな気候になりました。参加者は１０名とメンバーが少なかったので急遽、細川が下流域を担当し子どもたちと川を下ります。上流域は村田さんと、西澤さん（腰痛が心配ですが）たちにお任せしました。

瓶ケースとビニール傘

下流域は一週週間前に清掃したとは思えぬほどゴミが落ちていました。煙草の吸殻は勿論、ハート型のぬいぐるみ（棄てる人の気持ちはどんなだったのか想いを馳せざるを得ません）等、土嚢袋２袋分が回収されました。上流域は、バドミントンのラケット・魚取り網・洗濯物干し用のハンガー・鉄パイプ５本等訳の分からない物が回収されました。

回収した土嚢袋１１袋分のゴミ

１時間３０分ほど作業をしてちとせ園に戻り、作業が終わって戻ってきた子どもたちにお菓子とジュースを配り、さらにちとせ園の桜も満開とは行きませんがささやかなお花見をして解散しました。皆さんお一年間疲れ様でした。

学生部 新入生歓迎遠足 in アクアリウムさがみはら

【活動報告３】

４月２２日（土）

深沢大地

４月22日(土)に毎年の恒例行事である学生部新入生歓迎遠足が行われました。参加者は大人含め４人でした。

今回は、「侍従川では見ることが出来ない魚を見よう」と「色々な展示を見て自分たちの展示の参考にしよう」の２つをテーマに、相模川ふれあい科学館 アクアリウムさがみはらにて水族館見学をしてきました。

小規模な水族館でしたが、オタマジャクシ等の生体を用いて田んぼの季節の移り変わりを表現した水槽や、内側からも見る事が出来るドーナツ型の川水槽等、工夫された展示が多く、見せ方と日本産淡水魚や両生類に力を入れている印象でした。

いくつかの水槽を並べて上流～河口まで生息している場所によって生き物を分けている水槽等、自分たちがイベントで行っている方法もありました。

様々なタナゴの仲間やオオサンショウウオ等、中々見る機会の少ない生き物を見られた事も良い刺激になりました。

今回、残念ながら新入生は来られなかったのですが、新鮮で有意義な遠足になりました。

朝夷奈の森通信　～森の忍者より～　飯村優介

今春は、寒の戻りが三月中旬から四月初めまで波のようにありました。

桜の花は長持ちし、山桜のもと木の芽、春キノコと季節の味を楽しめました。

山地、里地、公園、海岸とある侍従川流域とそのまわりの春のめぐみ。天然シイタケ、タラの芽の１番芽は山、アミガサタケは公園、そして干潟の幸。

アサリ

トリガイとツメタガイとサザエ近似種

天然シイタケ

タラの芽

アミガサタケ

４月定例クリーンアップ

【活動報告４】

４月２３日（日）　９：００～１１：００　晴れ　　細川一雄

実施内容：大道東橋～大道橋～朝比奈橋～金ノ橋（土嚢袋８袋分回収、釣竿、突っ張り棒、傘等）

参加者：長野政治、中山吉雄、西澤博厚、石渡博、角田繁、関場俊子、田辺香代子、石塚正夫、長橋輝明、村田章夫、外川忠志、飯村優介、今井康祥、今井はるか（小３）、金澤由香、金澤喜乃（中１）、柴田繭子、柴田真菜（小６）、柴田幸成（小１）、柏倉智春、柏倉陽向（小５）、柏倉陽斗（小２）、伊集院寛太、伊集院奨太、伊集院ゆかり、村井千鶴、村井巧（小５）、村井薫（小２）、横山渉、横山わかな、横山宗一郎（小１）、中村健二、貞廣宇保、徳永宗介、徳永哲郎（小３）、小川和美、小川翔太（小６）、林正隆、林友美、林叶恵（小５）、林政朗（小３）、三小田憲、花塚杏介、深沢大地（高２）、細川一雄（計４５名）

作業の準備風景

桜もすっかり散ってしまいましたが、活動をするには絶好の陽気となりました。川に入る準備の声もいつもより明るく聞こえてきます。今年度最初のクリーンアップは４５名の人が参加してくれました（感謝・感謝）。上流と下流域との２班に分けて活動開始です。大人組も久しぶりにメンバーが揃いましたので今回は地蔵前橋のもっと上流の金ノ橋まで遡り、そこから川に入り、環状４号線の暗渠を抜けてセブンイレブンの後ろに出てきました。

耕地橋上流の清掃活動

この辺りは道も川に面してなく、庭も川に面していないので下流に比べてゴミが少ないような感じでした。しかし橋の下に来るとやはりゴミが沢山落ちていました。下流に向かっていくと堰が２箇所ありましたので転ばないように注意深く下りいつもの朝比奈橋の下にたどり着きました。

朝比奈橋下流の清掃活動

漸く延び始めた草の間にセイタカアワダチソウがありましたのでゴミを拾う傍ら引っこ抜いて川を下っていきます。

ちとせ園に戻ると子どもたちが、捕まえたアオダイショウの周りで騒いでいました。今回は田辺さんが皆さんにお菓子・ジュース・ビールを差し入れてくれましたので、有り難く頂きました。

回収した土嚢袋８袋分のゴミ（釣竿と傘）

ピカピカタンポポだより⑤

横浜市立大道小学校　鷺谷康子

今年も、大道小学校の侍従川・トンボ池の清掃ができました。

まだあまり暑くなく過ごしやすい５月23日、２・３校時に行いました。侍従川に親しむ会から細川さんに来ていただき、また、PTA委員のお母さん方に助けていただきながら、侍従川とトンボ池の清掃を行いました。

出発式で、みんなの「がんばろう！」のあと、それぞれの担当場所に出発しました。私は、今年は１年生の担任なので、校内のトンボ池の担当です。

１年生は、①池の中のごみ（プラスチックなど）をとる。②藻をとる（乾かす）。③ザリガニを駆除する（正門池に移そう）。と目標を確認して、みんなで恐る恐る池の中に入りました。

はじめはこわごわでしたが、ゆっくり池に入り、動き回った１年生です。いろいろなものをつかんだり、どろ（へどろ？）に足をとられたり、はまったりして大騒ぎをしながら、わいわい池の水に親しみました。

目標のごみは袋１つぐらい、藻は周りにまだ残ってはいますが、水面はきれいになりました。また、ザリガニですが、なかなか取れなくて、今年はバケツに１杯くらいでした。

侍従川でも、ごみ袋５～６個ほどのごみが取れました。気になったのは、諏訪の橋のあたり（５年生担当）で、貝で足を切る子が４～５人いました。貝の殻などで足を切りやすいようです。来年も、服装や装備など、さらに気をつけて取り組みたいと思います。

終わって、学校に戻り足や手を洗った子どもたちは、にこにこと、たち成感や満足感いっぱいの様子でした。身近な自然を感じる、良い経験をさせていただきました。

いろいろな方に支えていただき、活動ができました。ありごとうございました。

トピックス＆生き物発見記録

４／８（土）春の草摘み＆野草料理が雨天のため中止

５／１４（日）１９：４０頃ちとせ園下と二の橋下でゲンジボタルの成虫を確認（飯村）

５／２０（土）大道渓谷にてフクロウの鳴き声を確認（金子）

琉球生き物紀行　～美ら島の生き物たち～
～　ヤンバルトゲオトンボ　～

学名：*Rhipidolestes shozoi*　体長：♂４１mm　♀34mm

分布：沖縄本島北部

沖縄本島北部「やんばる」の固有種で主に河川の源流域に生息しており、３月下旬から８月中旬まで見られる。ヤゴ（幼虫）は水の滴る崖の砂礫などに生息している。成熟したオスは脚が紅く色付き、縄張り争いのときはこれを大きく広げて、オス同士向かい合って威嚇する。その姿はとても滑稽だ。本種を含めトゲオトンボ類の和名「トゲオ」は尾の先にトゲ状の突起があることに由来する。

監修：熊井健（沖縄在住）

«ご報告»

平成２９年5月6日（土）から6月２５日（日）迄　沖縄県立博物館にて開催中の「やんばる森の美」合同写真展にこの度７名の写真家の一人として出展させて頂く運びとなりました。すでに侍従会を離れ、丸８年になりますが、お陰様でこのような場所に出展させて頂けることになり感謝致しております。

先日、山田さん、梅田さんがご来沖され、帰りにこの写真展を見学されました。以下に当イベントの詳細を記した博物館 URL を掲載しますので、よろしければご覧ください。　熊井健

http://www.museums.pref.okinawa.jp/art/topics/detail.jsp?id=1767

北の国から　～北海道の新緑の始まり～　瀧本宏昭

侍従川流域での今年の桜の満開は、いつごろでしたでしょうか？

神奈川県の侍従川流域は3月末から4月頭ごろの時期かなと思います。それに対して、はるか北に位置する私が住む北海道の胆振（いぶり）地方では、4月終わりから5月頭ぐらい。約1か月の差があります。そして、私が住む地域はこの桜の満開前頃から、やっと新緑が鮮やかな季節に突入していきます。林の下の地面に目を向けると、春の妖精とも呼ばれる草花たちを楽しむことができ、毎日と言っていいほどの早さで植物の種類が増えていきます。

北海道ならではの花もありますが、本州では内陸でしか見ることができない花を海岸近くで見ることができるのも、面白い点の１つです。

ゴールデンウィークに北海道に足を運び、２度目の桜や北海道ならではの花々を楽しんでみてはいかがでしょうか？

さらに良く目をこらすと、冬眠から目覚めたシマリスなどの小さな哺乳類も観察することができ、植物の新芽を食べている様子なども観察することができます。

２年目の春、去年は野鳥を覚えるのに必死でしたが、今年は植物や哺乳類ともにらめっこをしていきたいと考えています。

アズマイチゲ

エゾエンゴサク

エゾヤマザクラ

エンレイソウ

キクザキイチゲ

ヒメアマナ

キバナアマナ

シマリス

フクジュソウ

侍従川定例調査報告　学生部

２０１７年4月２３日（日）　９：３０～１１：３０

【調査範囲】大道橋～六浦二号橋

【確認した生物】チチブ(多数)、ウキゴリ(１)、スミウキゴリ(４)、マハゼ(１)、ヒナハゼ(２)、ボラ(１)※目視では多数、ミナミメダカ(２)、カワニナ(多数)、イシマキガイ(多数)、チチュウカイミドリガニ(１)、クロベンケイガニ(１)、ミナミテナガエビ(１)、テナガエビ(２)、ミゾレヌマエビ (多数)、ハグロトンボ(８)、オオシオカラトンボ(１)、ヤマサナエ(１)、アメンボsp(５)、アオダイショウ(１)、ニホンカナヘビ(１)、ヒガシニホントカゲ(１)、クサガメ(１)、ミシシッピアカミミガメ(１)　※種名(個体数)

【備考】捕獲した個体のみカウントしました。
ウキゴリと思われる稚魚が沢山いました。
テナガエビの仲間は３～５ｃｍ程の個体がたくさん採れました。
ハゼ類の卵塊を４つ確認しました。

ホタル観察会のポスター
（作成：平川）

学生部 ホタル調査 in 大道渓谷のお知らせ

［実施期間］５月 24 日(水)～6 月下旬(予定)の毎週水曜日と土曜日　※雨天中止
［実施時間］19:00～20:45
［集合場所］大道中学校
［参加対象］学生部　**※学生部以外の方でも参加は可能です。**
ただし、小学生以下は保護者同伴で参加してください。
［留意点］中学生以上は保護者の同意の元参加してください。
懐中電灯でホタルや民家を照らす事が無いようにしましょう。
夜なので、大きな声で話したり騒いだりしないようお願いします。
調査終了後は速やかに帰宅しましょう。

以上、皆様の参加をお待ちしております！

事 務 局 だ よ り

事務局　金澤由香

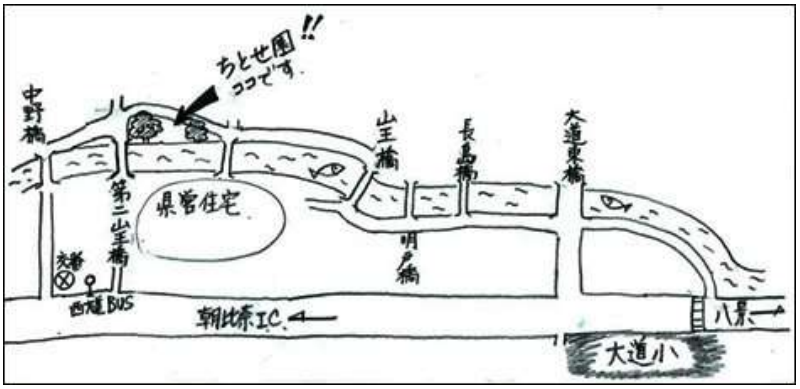
◆６月～９月の活動予定◆

☆定例クリーンアップ６／２５（日）、７／２３（日）、８／２７（日）、９／２４（日）

９時～１２時ちとせ園集合

※雨天延期…翌週日曜

持ち物：川に入れる格好、タオル、軍手（必要な人）、網（使いたい人…貸出あり）、着替え（心配な人）　※川の上からの参加でも構いません



☆７／１６（日）、１７（月祝）いかだ下り大会（流域連携よこはま・横浜市野島青少年研修センター協力）

☆８／５（土）～６（日）ジュニアキャンプｉｎ野島（横浜市野島青少年研修センター協力）

※詳細はホームページ及びメーリングリストでお知らせします。

■学生部の活動は追ってお知らせします。

＜＜平成２９年度会費納入のお願い＞＞

４月から新年度になりました。新年度分の会費の納入を**6月中**にお願いいたします。現金での支払いは間違いのもとになりますので、必ず郵便局払込票で支払いください。

なお、払込料金は、**払込人負担**（青色の払込取扱票）とさせていただいています。ご理解・ご協力をお願いいたします。

また、複数人分の会費を振り込む場合には、振込用紙の通信欄に、お名前と内訳（大人○名、子ども○名）の記入をお願いいたします。

口座記号番号：00230-5-68634　加入者名：ふるさと侍従川に親しむ会

年会費：大人 3,000 円　大学生以下 1,500 円

ふるさと侍従川に親しむ会事務局　金澤　由香

TEL：090-4072-8485　e-mail：jijyukai@gmail.com

≪編集後記≫　毎号楽しみにしていた方も多いのではないかと思いますが（私も楽しみにしていた一人です）、だぼはぜ通信第１号から続いていた「佐野真吾が語る侍従会の思い出」がついに最終回となりました。９年間もの長い間、毎回ネタを考え、原稿を書くのは大変だったのではないかと思います。佐野副代表お疲れ様でした。（ＭＫ）